			平成28年度行	· ikt:	車業Ⅰ,	۲ - L	-シート		<del>  不田                                   </del>	興庁	)	
事業名			構想に基づく先端農林業口		担当部		復興庁	\	仅		<i>/</i> 成責任者	
事業開始年度		- 2 O 年度 - 事 5	<b>終了</b> 平成32年	F度	担当	課室	統括官付参	事官(予	算•会計担当)	参事官 後	藤 浩平	
会計区分	東日本大震災復興特別会計											
<b>根拠法令</b> (具体的な 条項も記載)				関係する通知		福島・国際研究産会報告書(平成26年		基本計画(平成27年3月31日閣議) E業都市(イノベーション・コースト) 5年6月23日福島・国際研究産業都 、ト) 構想研究会決定)		スト)構想研究		
主要政策・施策	科学技	<del></del> 支術・イノベ <i>ー</i> ション										
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	想研究れてお取組を	記会報告書」が取りまとと り、農林水産分野の研 支援することを目的とし	かられた。本報告書では先 究開発・実証プロジェクトを 、ている。							を目指すこととさ 射発・実証研究の		
	体的に	支援の対象とする課題	5市町村を対象とし、農林 直は以下の4つ。 実証 ②除草用ロボットの									
実施方法	補助											
			25年度		26年度		27年度		28年度	2	9年度要求	
		当初予算	-	_			-		95		95	
	予算	補正予算 前年度から繰越し	_			_		_				
予算額・	の状況	翌年度へ繰越し	-	_			_		_			
<b>執行額</b> (単位:百万円)	100	予備費等	-	-		-		-				
		計	0	0			0		95		95	
	執行額		-	-		-						
		執行率(%)	-	-			-					
	定量的な成果目標		成果指標			単位	25年度	26年月	27年度	中間目標年度	目標最終年度 32 年度	
成果目標及び成 果実績 (アウトカム)	(160馬ない大き、160馬の大き、16		先端技術を用いた被災地の農業の復興を目的として、左記の①~④の性能備えた各農林業ロボットの開発・改良等を行う研究記題数		成果実績	-	-	-	-	-	-	
					目標値	課題	-	-	-	-	4	
				達成		%	-	-	-	-	-	

活動指標及び活 動実績 (アウトプット)		び活		活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年月	度活動見込	
		<b>し</b> ツト)		いた被災地の農業の	活動実績	課題	-	-	_		4	
			施する課題数		当初見込み	課題	-	-	-		4	
				算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年原	度活動見込	
	位当た コスト				単位当たりコスト	百万円	1	1	-		23.8	
				執行額/実施課	計算式	百万円/課 題数	_	_	_		95/4	
		歳出	予算目	28年度当初予算				主な増減	理由			
	農林水産試験研究費補助金			95	95	-						
_												
9年度予												
算												
内訳			<del>-</del> 1	0.5	0.5							
			計	95	95							
		政策	2. 農業の持続	的な発展								
	政策評価	施策	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1									
政策評		測定指標		定量的指標			単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標年度 年原
神				実績値	ı	ı	ı	_	_	-		
· 隆	Щ	139:		目標値	ı	I	ı		_	-		
<b>斉</b>			本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
材及写生アラ		福島県浜通りや避難区域の15市町村を対象とし、農林業に関する作業の効率化、省力化、軽労化に資するロボットの研究開発を推進する。このにより、「福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想研究会報告書」の実現、具体的には、東日本大震災によって多大な影響を受けた島県浜通り地域において、先端技術を全国に先駆けて実施することを通じて、地域の農林水産業の復興・再生に寄与する。										
		改革 項目	分野:	-								
.		略)		KPI (第一階層)			単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年
ן ב	7	第一階層)				成果実績	-	-	-	-	-	-
7 5	ョ済 ン・		_			目標値	-	1	1	-	-	-
ログラムとの関係						達成度	%	-	-	-	-	-
D 関 系	・ プログラ	(第二階層)		KPI (第二階層)			単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年
						成果実績	-	-	-	-	-	_
	ĭ		_			目標値	-	-	-	-	-	
						達成度	%	_	-	-	-	
					<b>本</b> 事業	のは用と	かまでロー	KPIとの関係				

	事業所管部局による点検・改善									
		J	頁 目		評価	評価に関する説明				
	事業の目	的は国民や社会のニーズを的	可確に反映して	いるか。	0	福島県浜通り地域においてイノベーションによる産業基盤の再構築を目指す「福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想」は、地元を含む産学官の有識者で構成される福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想研究会にて平成26年6月23日にとりまとめられたもので、当該構想を実現するという本事業の目的は国民や社会のニーズを反映している。				
人の必	地方自治	体、民間等に委ねることができ	きない事業な <i>0</i>	ጋか。	0	福島県浜通り地域においてイノベーションによる産業基盤の再構築を目指すため取りまとめられた「福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想研究会報告書」では浜通り地域の再生を「国の責任」として実現することが掲げられた。また、本構想は国、福島県、地元市町村がそれぞれ単独で成し遂げることは難しく、この3者をはじめとする関係者が一体となって取組を進めていく必要がある。				
要性	政策目的事業か。	の達成手段として必要かつ適	切な事業か。i	政策体系の中で優先度の高い	0	福島県浜通り地域においてイノベーションによる産業基盤の再構築を目指す「福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想研究会報告書」が取りまとめられた。本報告書では浜通り地域の再生を国の責任として実現することが掲げられており、農林水産分野においても先端技術を全国に先駆けて実施することを通じて、東日本大震災と津波によって大きな被害を被った地域の農林水産業の復興・再生を目指すこととなっており、その着実な実施が必要、かつ、優先度が高い。				
	競争性が	確保されているなど支出先の	選定は妥当か	6						
事		般競争入札、総合評価入札又 応札又は一者応募となったもの		企画競争)による支出のうち、一						
業	競:	争性のない随意契約となったも	らのはないか。							
の効		の負担関係は妥当であるか。								
率		りコスト等の水準は妥当か。	######################################							
性		れの中間段階での支出は合理 金が事業目的に即し真に必要								
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。									
事		は成果目標に見合ったものと								
業	業 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合 それと比較してより効果									
有	<b>りあるいは低コストで実施できているか。</b>									
効性		は見込みに見合ったものであ た施設や成果物は十分に活用								
		事業がある場合、他部局・他服								
		具体的な内容を各事業の右に								
関		所管府省·部局名	事業番号	事業名		-				
連事業										
点検・	点検結	<b>果</b>								
結び果。										
本改善善	改善の 方向性									
				外部有識者の所見	Ļ					
点検対	点検対象外									
				行政事業レビュー推進チー	ムの所見					
	ロボナボとして、ほだと、つびけが									
	現 状 通 り	先端技術を全国に先駆けて身 引き続き効率性に留意しつつ			・再生を図	図ることを目的とした復興に資する必要性の高い事業である。				
			所見を	踏まえた改善点/概算要求に	こおける	<b>反映状況</b>				
	現									
	現 状 通 り	事業の目的である先端技術を 算の執行に努めていく。	全国に先駆け	て実施することを通じた地域の	農林水産	業の復興・再生の達成に向け、引き続き効率的・効果的な予				

## 備考 関連する過去のレビューシートの事業番号 平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 ※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。 復興庁 95百万円 (農林水産省へ移替え) 農林水産省 95百万円 **資金の流れ** (資金の受け取 り先が何を行っ ているかについ て補足する) 補助 補助 補助 (単位:百万 円) 研究グループ 研究グループ 研究グループ 33百万円 23百万円 30百万円 ロボットトラクタの開発及び実証 除草用ロボットの開発及び実証 苗木植栽ロボットの開発及び実証 帰還が進まない対象地域での担 対象地域における海岸防災林の い手不足に対応するため、北海道 労働負担が大きい畦畔・法面の 早期造成に向け、現在は人手に 頼っている植栽作業の機械化への 大規模畑作を主な対象として開発 除草作業の軽労化が特に求められ が進められてきた有人一無人型の ている対象地域において、国内で ニーズが特に高くなっているため、 自動走行システムについて、中型ト 開発が進められている畦畔法面除 国内で開発が進められている苗木 ラクタ(50~70馬力程度)に低コスト 草用ロボットのうち最も実用化に近 植栽ロボットを活用し、海岸林特有 で搭載できるようにするための改良 い段階に進んでいるものの改良及 の密植などの条件下で当該作業が 及び現地実証を行う。 び現地実証を行う。 適用できるようにするための改良及 び現地実証を行う。 ※上記3研究グループのほか、同様の仕組みで1研究グループ(9百万円)で研究を実施予定。 ※新規要求事業であるため、上記の金額については現時点での見込み。

費目・使途 (「資金の流れ」に おいてロックご とに最大の金額 が支出されている 者について記載 する。費目と使途 の双方で実情が 分かるように記		Α.		B.					
とに最大の金額 が支出されている	費目	使 途	金額(百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)			
者について記載する。費日と使途									
の双方で実情が									
載)									
	計		0	計		0			

## 支出先上位10者リスト A.

	支 出 先	法人番号	業務概要	支 出 額(百万円)	契約方式	入札者数 (応募者 数)	落札率	ー者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1								